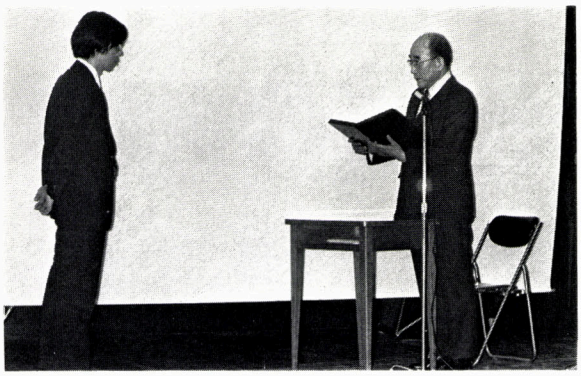


第6回「胃と腸」賞贈呈式開催さる

第6回「胃と腸」賞の贈呈式が6月17日（水），早期胃癌研究会例会会場（エーザイ本社5階ホール）で開かれました．

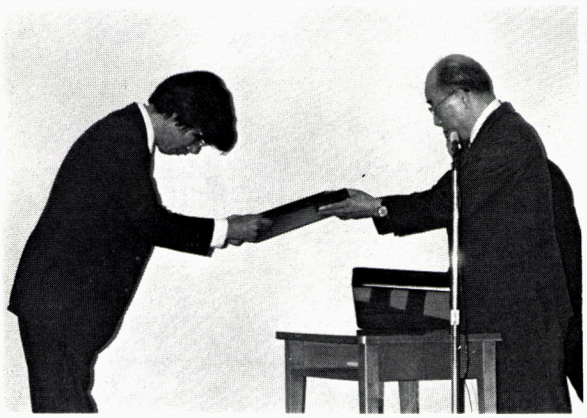
今回は，筑波大学基礎医学系病理 中村恭一氏ほか8氏の次の論文に贈られました．

中村恭一，加藤　洋，美園俊明，菅野晴夫，杉山憲義，馬場保昌，丸山雅一，高木国夫「Linitis plastica 型癌の発育過程に関する研究」（「胃と腸」15巻2号，225～334頁，1980）

贈呈式は例会幹事の古澤元之助九州がんセンター消化器部長の司会のもとに進められました．中村恭一氏が代表して壇上で紹介を受け，早期胃癌研究会（村上忠重代表）の芦澤真六東京医科大学教授より賞牌，賞状および賞金が贈られ，崎田隆夫筑波大学教授より祝辞が述べられました．

崎田氏は，「早期胃癌診断は行き着く所まで来たが，IIbとスキルスの2つが難関と言われて久しい．中村先生らは相当前からlinitis plastica型胃癌の組織発生に取り組んできたが，今回の受賞は永年の研究の賜だ．更に完成させて，今度はもっと大きな賞を取ってほしい」と励ましの言葉を贈りました．

これを受けて中村氏は，「十数年来このテーマを研究してきた．一般の癌より発育が速いlinitis plastica型癌の，経過時間と形態変化について，1つの仮説を確立したと思っている．これからも多方面から検討を加えて，確固とした理論にしたい」と抱負を述べました．



芦澤教授（右）より賞状を受ける中村氏

祝辞を述べる崎田氏

謝辞を述べる中村氏

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2012

2026/09/29 19:10:01